



1 五感で癒す新しいカタチへ!

合同会社Ratell



「地域経済論」の授業風景

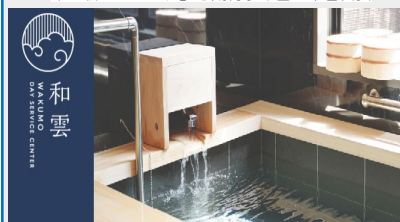
「地域経済論」の講師は中小企業診断士として活躍される宮田貞夫先生です。

授業では、躍進する地域企業のリーダーから、現状説明と課題を頂き、一か月後に学生が解決案を研究し報告するものです。今回は、合同会社「Ratell」代表の富田卓也代表です。富田さんは「ITを学ぶ皆さんのアイデア、『新しいカタチ』を期待します」と話していました。

学生の菱沼大濤(多賀高卒)さんは「高齢化社会において介護もITで支援したい」と力を込めて話していました。



↑「新しいカタチ」を期待する富田卓也代表



合同会社「Ratell」のWebページ

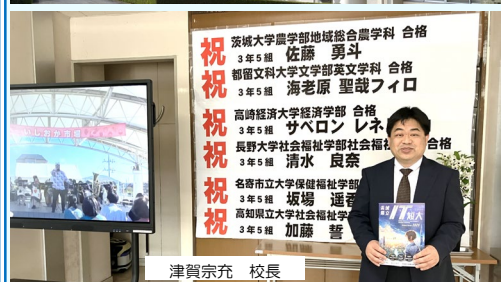
2 みんなの母校訪問①



県立石岡第二高等学校



正面玄関からの学校風景



津賀宗充 校長

県立石岡第二高等学校は、創立110年を超える伝統校です。現在、普通科と生活デザイン科を有し、卒業生も本校に入学しています。

昨年度、第17回キャリア教育優良校として文部科学大臣賞を受賞した高校です。

本年度校長となられた津賀宗充校長は「地域とともに新しい価値を究め、教育活動に高い評価をいただいています」と話していました。

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞日経新聞(2025年4月14日)

共生社会へ新技術実験

AIスーツケースの浅川さんに聞く

●水地穂吏さん(常磐大高卒)

◇要約: AIを搭載し、視覚に障害のある人に道を音声案内するスーツケース型ロボットを開発。内蔵のカメラやセンサーで得られるデータをもとに、障害物の位置や歩行者との距離を感知、最適な移動ルートを案内できるのが特徴。

◇感想: 自分の体験から浮かんだアイデアを、街を歩きにくいと悩む視覚障害者のためにAIスーツケースを開発したが、アイデアを形にする能力が素晴らしい。どんなシステムでも利用してくれる人のことを考えることが重要だと思った。

●松崎俊祐さん(勝田工高卒)

◇感想: 浅川館長が開発したAIスーツケースが世界中に普及されれば、世界中の視覚障害者が安全に暮らすことが出来る世界になりそうだ。また、視覚障害者でもプログラミングを学べる職業訓練センターがあることも初めて知った。

●藤田彪吾さん(土浦工高卒)

◇感想: 目が見えない人ならではの視点、発想に驚かされた。オムロンなど日本のIT企業なども協力したAI技術というのも気になる。AIはまだまだ発展途上であるため、自分でも活用できるAIを探し、行動に移せるような技術者になりたい。

●中村太紀さん(多賀高卒)

◇感想: 自分が視力を失って感じた不便さを元に、他の同じような経験をした人々のために、AIを活用したロボットを開発している。人のためにIT技術を利用しているところも見習いたいと感じた。

●水津知大さん(常磐大高卒)

◇感想: 今の日本では点字ブロックが普通にある時代になっており、障害を持っている人が増加している一方で、異文化の理解をしてもらえず、行動できずにいる人がいる。

そうした人々のためにも「共生社会」という考えのようにより広い視点からも考えることを大切にしようと思った。



ITから
創造した
未来へ

